

合いことば 知性白新ノ 明朗白新ノ ファイト白新ノ		教育目標 知性の高い 生徒になる
---	--	-------------------------------



第77回 卒業証書授与式

式辞

名残の雪もひとしきり、中庭に差し込む柔らかな光が、木々や大地に、確かな春の訪れを教えてくれる。そんな季節となりました。ただ今は、卒業生七十名に、卒業証書を授与いたしました。改めて、卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

この輝かしい門出に、多くのご来賓の皆様、そして、保護者の皆さまをお迎えし、新潟市立白新中学校第七十七回卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますこと、心より御礼申し上げます。

＜中略＞

さて、卒業生の皆さん、皆さんが今、手にする卒業証書には、皆さんの名前とともに、誕生の日が記されています。皆さんが確かにこの世に生を受け、そして、ご家族のあふれる思いと願いが込められた、ただ一つの名前を付けられた、このことが人生の始まりだったのです。

自分が何者であるのかという、いわゆるアイデンティティの核になるものが、自分の名前であり、誕生の日から注がれる あまたの愛情なのです。

そこから十五年の月日が流れ、今まさに、この白新中学校を巣立とうとしています。

「知性の高い生徒になる」

これまで白新中学校で学んだ多くの若者たちが同じく目指したその高み、その大きな目標に向けた自らの軌跡を語った過日の卒業発表会では、「挑戦」「努力」「自信」「勇気」といった自らにベクトルを向けた言葉とともに、「協力」「信頼」「感謝」などという他者に向けた言葉であふれていました。これらの言葉にたどりついた皆さんのエピソードは、それぞれに多彩で、同じ時を過ごしていても、気づきや感じ方には違いがあり、そのことを表出する姿にも個性が光ります。一人一人が違うということにおいて、三年間を走りきった、皆さんならではの輝きがあったのです。

その一方で、語り手が代わっても同じく響く、まるで通奏低音のような響きもありました。

それは、他者との関わりの中で自らが存在し、他者との関わりの中で自分は成長することができた、という共通の気づきです。卒業発表会での皆さんの姿は、互いの成長物語という響きを、互いに聴き合い、響かせ合う、まさしく共鳴する響きであったと思っています。

だからこそ、皆さんには、これからも人との関わりの中で、しなやかに、そして、強く、生きていって欲しいと願っています。

フランスの十七世紀の思想家パスカルは「人間は考える葦である」という有名な言葉を残しています。葦というのは、湿地帯に育つ稲科の植物で、ヨシとも呼ばれ、日本でもなじみのある植物です。

茎がさほど太くない葦は、強風に弱く、すぐにしなって曲がってしまいます。そういった存在がおぼつかない様子を指して、「人間を葦に例えたのだ」と言う人もいます。

しかしながら、パスカルは「考える葦」と言っています。この「考える」という言葉こそが、実に意味のある言葉なのです。ここでの「考える」という言葉は、今の自分の在りようを知っているという、その賢明さを指しています。

自らを知る賢明な「葦」は、風が吹くとそれに身をまかせてしなり、一見、逆境に屈したかのようにも見えます。が、しかし、風がおさまると、徐々にその身を起こし、再び、何事もなかったかのように、また、悠々とそよ風に揺れる。この姿こそが、パスカルが葦に例えた人間の姿なのです。

「しなやかに、そして、強く」

人との関わりの中で、自分が何者なのかという、自己のアイデンティティを確かめながら、自らの将来を展望し、多様な考えをもつ人々と互いに心地よい関係性を築き、そして新たな次代を創り上げていく。このプロセスにこそ、今、皆さんが挑もうとしている答えのない問いへの、自分なりの正解が存在するのではないのでしょうか。

歩んできた道よりも、ずっとずっと長いこれからの道で、その答えにきっとたどり着いてくれるものと、大きな期待を寄せています。

改めて、卒業生の皆さん、卒業おめでとう。そして、令和六年度の白新中学校が、未来に挑戦し、誰もが憧れる白新中学校として輝くことができたのは君たちのおかげです。本当にありがとう。

季節が移りゆく弥生の朝に、第七十七回卒業生七十名に幸多かれと願い、式辞といたします。

令和7年3月7日

新潟市立白新中学校長 金山 光宏



祝辞

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。ご来賓の皆様には、お忙しい中、ご出席賜り誠にありがとうございます。

改めまして、卒業生の皆様、卒業おめでとうございます。卒業生の皆様、白新中学校で過ごした3年間にはどのような思い出がありますか？色々な出来事があったと思います。楽しいこと、嬉しいこと、時にはつらいことや困難なこともあったことでしょう。それらの経験が、皆さんをより強く、より豊かな心をもった人へと成長させたのです。

先日の卒業発表会を見学して感じました。白新中学校の3年間で大きく成長した皆様には、自分の目標ややりたいことに「挑戦する勇気と力」がすでに備わっています。目の前にある新しい挑戦や可能性に、臆せず飛び込んでいってください。やりたいことを見つけ、それに挑戦することが、人生をより豊かで楽しいものにしてくれます。時には失敗することもあるかもしれませんが、それもまた成長の一步です。また、遠回りしたからこそ出会えるものもあります。大切なのは、失敗を恐れず、挑戦し続けることです。

これからの道のりでも、たくさんの選択肢が待っています。人生の中で何度も「選ぶ」という瞬間が訪れるでしょう。その時には、今まで育ててきた自分の心の声を大切にして、自分の心がワクワクすること、自分が情熱を感じることに向かって思い切り挑戦してほしいと思います。他人と比べる必要はありません。皆さん一人ひとりの道です、自信を持って歩いていってください。

最後に、君たちに思い出があるように、私たちにも思い出があります。笑ったこともあります。心配したこともあります。感情的に怒ってしまったこともあります。君たちが生まれてから15年間を振り返るとたくさんのエピソードを思い出します。

君たちと共に歩むことができた15年間、最高に楽しかった！

ありがとう！

君たちの成長に伴って、君たちと私たちの距離感は少しずつ変わっていきます。ただ、変わらないこともあります。君たちと私たちが親子であること。私たちが君たちのことが大好きだということ。私たちが君たちをいつまでも応援していくことは変わることはありません。今後も共に楽しく歩いていけたらと思います。

卒業生の皆様が、笑顔の絶えない豊かな人生を送ることをお祈りいたします。

令和7年3月7日

新潟市立白新中学校 親学会会長 嶋津 裕樹



送辞

今年はここ数年で一番というほど大雪でした。生徒玄関の片隅にある雪山も少しずつ小さくなっています。中庭にいる鯉も動きが活発になり始め、白新中学校でも春を感じるようになりました。

七十名の卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

今、こうして先輩方の姿を目にしておりますと、数々の思い出が溢れんばかりに浮かんできます。今年の生徒会スローガン「爆進」。そのスローガンのように先輩方は自らの理想を追い求め、挑戦をし続けました。私たち在校生が先輩と過ごした日々で特に強く印象に残っている場面を三つ紹介します。

一つ目は行事です。白新中学校の行事は三年生が中心となって創っていきます。先輩方は一つ一つの行事において、最後まで「挑戦しやり抜く」姿を見せてくださいました。特に印象に残っているのは「衝導」というスローガンのもと行った体育祭。そこで最後に見せた先輩方の涙。その涙には、私たちからは見えないところで抱えていた最上級生としての熱い思いがあることに気づきました。体育祭成功のために多くの努力をし、全身全霊で挑んだ姿は、今でもしっかりと私たちの目に焼き付いています。

二つ目は全校FTです。全校FTでは、「認め合い励まし合う」姿を私たちに見せてくれました。先輩方は後輩の意見にいつも耳を傾け、意見を引き出し、そして語りかけてくれました。緊張している私たちに、優しく寄り添い「どう思う」と声をかけてくれた姿は、私たちの見本です。また自分の思いを力強く語る姿には、先輩方の強さを感じました。FTの中で見せた優しさと強さを兼ね備えた姿は私たちの目標とする姿となっています。

三つ目は放課後デザイナーです。前年度に始まった放課後デザイナーの元となるイベントを、もっと大規模なものに創り上げることができたのは、先輩方が楽しさを創造するために自ら考え、行動した結果だと思います。そして、そのイベントを率先して盛り上げていた先輩方からは物事を最大限に楽しむワクワク魂を感じました。

学校を創り上げ、楽しさを創造していた先輩方は、まさに白新中学校の designers でした。

明日からは私たち在校生が白新中学校を創り上げていく番です。先輩方が築いてきた伝統を引き継ぎ、歴史ある白新中学校の一ページを飾ることができるよう、全力で取り組んでいきます。これまで私たちを導いてくださり、本当にありがとうございました。そして今まで先輩方の後輩としてこの学校とともに学び、成長できたことを心から誇りに思います。

最後になりましたが、先輩方のこれからのご健康とご活躍を心からお祈り申し上げ、在校生代表の送辞とさせていただきます。

令和7年3月7日

在校生代表 荻原 いつむ



答辞

『知性の高い生徒になる』

私たちはこのゴールを目指して三年間を旅してきた。

果たして私たちはなれたのだろうか、目指す姿に。

厳しかった冬の寒さもようやくやわらぎ、春の訪れが感じられるこのよき日、私たち七十名は多くの皆様からの祝福を受け、この学び舎を卒業します。

私たちはこの三年間で、『知性の高い生徒になる』を始めとし、いくつかのスローガンに出会いました。そしてそれらは私たちの指針となり、私たちの成長を後押ししてくれました。

一年生。体育祭、委員会活動、ファシリテーション、部活動。私たちの前には課題解決に向かって努力し、楽しい白新中学校を自ら作ろうとする先輩たちがいました。優しく後輩を導いてくれる姿は輝いていて、「中学生ってすごいな」と感心しました。

先輩たちについていくだけで精一杯だった私たちが、初めて「自分たちで」を意識したのは演劇発表会でした。その時掲げたスローガンが『No action No tomorrow. (行動なくして明日は来ない)』。「新潟樽きぬた」の主人公たちのように、一人一人が自ら行動した先に、行事の成功があること、また仲間同士協力することの大切さを実感しました。

二年生。楽しい学校づくりについて意識し始めた私たちのスローガンは『DIY.(それ、自分たちでやってみよう)』でした。放課後デザイナー活動が始まり、活動をプロデュースする生徒がでてきました。スマイルアフタースクールの放課後イベントは好評で、自分たちで企画運営することの面白さを見出すとともに、難しさも伴うことを学びました。

二年生の演劇のテーマは「働く」でした。

職場体験学習で地域の皆様から教わったのは、お客様や利用する相手のことを思う『Hospitality(おもてなしの心)』の大切さ。末期がんの主人公をケアするスタッフチームと自分たちを重ね、見てくださる人を意識した劇づくりを目指しました。『Hospitality』。他者意識をもつことは何ごとにも通じる大切な考え方であり、ずっと私たちの学年の心の支えでした。

三年生。最高学年として、学校を先導する立場になりました。どう学校生活をデザインしていこうか、私たちらしい白新中学校とは何だろう。でも、悩んでいる暇はありませんでした。私たちについてきてくれる一、二年生が待っている。期待してくれる人たちがいる。やるしかない。今年の一新会スローガン『爆進』はこんな私たちの気持ちの象徴だったと思います。心配はいらない、きっと何とかなる。私たちにはこれまで蓄えてきた経験と知識、そして助け合える仲間たちがいました。

体育祭。まずは自分たちが手本を見せ、心から楽しむこと、勝っても負けても笑顔で称え合うことをゴールとしました。応援ソングが流れれば、自然と皆が歌い踊りだす。一、二年生も一緒になってチームが一丸となる感覚がありました。迎えた前日祭、そして本番。全校生徒が本気で取り組み、皆が笑顔でした。

演劇発表会。三年生のテーマは自己実現。佐渡でシネマの運営を経験しながら成長していく中学生の姿を描きました。三年間の集大成となる演劇をレベルの高いものにしたいと試行錯誤を繰り返しながら、七十人全員で作品を仕上げていく行程は、「なりたい自分」を目指す主人公と重なりました。

合唱発表会。二年間共に歩んできたクラスの仲間と創り上げるハーモニー。強い絆があるからこそ、リーダーとフォロワーが本音で考えをぶつけ合い、完成度の高い作品に仕上げました。

一新会活動。日常生活がより楽しく、充実したものとなるように、それぞれの委員会が工夫を凝らした活動を行いました。三年生が自ら行動し、活動を盛り上げることができました。

私たちはこの三年間で少なからず成長できたと自信をもって言うことができます。もちろん、多くの方々の支えがあってこそその成長だったと思います。

地域の皆様。いつも温かい目で見守ってくださったことに感謝申し上げます。白新中学校の特色である地域と共につくるイベントの充実は、皆様のご協力があるからこそです。

在校生の皆さん。共に切磋琢磨しながら様々な活動を盛り上げることができたことを、誇りに思います。活力に満ち溢れたみなさんは、さらなる高みを目指してより良い白新中学校をデザインしてくれることでしょう。応援しています。

先生方。どんな挑戦の場面にも先生方は私たちに寄り添ってくださいました。行き詰まった時のアドバイス、生きる上での教訓もたくさんいただきました。白新中学校の素晴らしきの源は先生方だと思っています。これまで支えていただき、ありがとうございました。

保護者の皆様。十五年間、常に私たちを一番近くで見守ってくれました。そのおかげで今の私たちがあります。普段言えない感謝の気持ちを今日はちゃんと伝えます。本当にありがとう。まだまだ非力ではありますが、いつかこの恩を返せるように全力で生きていきます。

『知性の高い生徒になる』

これを目指して歩んできた旅の終わりに考えることがあります。『知性の高い生徒』に果たして、ゴールはあるのでしょうか。それが何かを追求し続けることに本当の意味があるのではないのでしょうか。

私たちはこれから社会の一員として、新しい環境やさまざまな課題に対峙していくことになります。その状況に応じて何が正しいのかを自ら考えて判断し、行動に移していくことが求められるでしょう。

私たちの新しい旅がこれから始まります。この白新中学校で学んだことを糧に『知性の高い人間』を追求する者として、それぞれの道を突き進んでいくことを誓います。

名残は惜しいですが、皆様のご健康と白新中学校の益々の発展を祈り、答辞とさせていただきます。

令和7年3月7日

第七十七回卒業生代表 岡田 正太郎

